

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
センター長	増田 大作
副センター長	花田 浩之

—概要—

当センターは従来の診療ごとの役割とは違う観点から研究マインドをもってりんくうおよびこの泉南地域の特色を活かした事業を多彩に進めたいと考えている。その3つの柱として、①Wellnessウェルネス、②Careケア、③Activityアクティビティを規定し、そのそれぞれについて活動する。

① 「生涯リスクを知り健康を維持するウェルネス」

健康でかつ安心な状態であるウェルネスを続けることは健康寿命の延伸し充実した人生につながる。健康診断の受診は現在の健康の有無は評価できるが将来予測は難しい。これが可能になるとよりウェルネスを向上させられるはずである。健康管理センターにおける健康診断結果の生涯リスク予測を可能とし、受診者の増加・受診率の向上・未病状態の発見や改善につながる一般外来への連携を進め、現在この地域の方々さらにはこの国のウェルネスをさらに深めたいと考えている。

② 「多職種かつ施設間で連携して疾患と闘うケア」

本地域の地域連携において、スムーズな情報提供がなされているとは言えない状況でありまた当院の中でも医師だけではなく事務職やメディカルスタッフ(看護師・栄養士・臨床検査技師・保健師・放射線技師・介護施設者など)の連携は十分ではなく工夫が必要である。これらの「連携」をすすめるため、負担を増やさずにスムーズにする手法について検討を行い、地域における医療の効率化を考える。

③ 「地域の活性化や医療者のアクティビティ」

医療の業界のみならず長時間労働や負担の多い仕事が本来の仕事を妨げ、医療者が活躍できる状態から離れる事態に陥りやすくなっており、業務改善が強く求められる。また、地域の人口減や営業力の低下など過疎化が進行している。医療者を中心に地域が活性化すればもっとアクティビティ=活力は向上すると予想される。「ウェルネス・ケア」を中心とした地域健康管理や健康事業を増進していくため様々な提言や介入を進めていきたいと考えている。

「ウェルネス」「ケア」「アクティビティ」をキーワードに、得られた結果をアウトプットし、「りんくうウェルネスケア」をブランディングしこの地域の「特色」として我が国のモデルとなるよう進めたいと考えている。

—実績—

以下、①②③それぞれについての実績を列記する。

① 「生涯リスクを知り健康を維持するウェルネス」

当院健康管理センターは従来少数での健康診断のみが進められており、十分な数の健康診断を進めることが出ず地域の中核病院としての予防医療の業務を果たしていなかった。健康診断の増加を見据えたシステムの改築や拡大を1年間かけて検討し、来年度の導入に向けて渉外を行い来年度から新規健診システムの導入が決定した。このことから新規システムにおいて日本動脈硬化学会による動脈硬化性疾患予防ガイドラインにおいて示されている一次予防症例における吹田スコアを用いた狭心症疾患発症リスク評価システムを導入し、従来の健康診断では示されなかった将来10年間の狭心症発症率を健診結果に提示することでより具体的なリスクの表示と予防・治療の重要性を示すことに成功した。また、健康管理センターでの受診を促すために泉佐野市で開催の泉佐野健康フェスタや市報に情報提供・また市民公開講座を開催することによりさらなる受診率の向上に努めた。また、後述の家族性高コレステロール血症(FH)についても地域と連携し当院健診を含めスクリーニングを進めている。また、睡眠時無呼吸スクリーニングにより循環器内科における睡眠時無呼吸専門外来と連携し、実際に数例が無呼吸症候群と診断されCPAP治療を受け無呼吸が改善し業務の継続に資する結果となっている。

また、前職から継続して実施している脂質異常を中心とした様々な臨床研究を継続して実施し、その成果を国際的な査読のある雑誌に投稿し受理されている。また同様の内容を国内の商業誌にも掲載している。さらに医師向けの講演会も多く開催しており、当センターの対外的な評価を上げる努力を継続している。

② 「多職種かつ施設間で連携して疾患と闘うケア」

当院においても長時間労働が問題となり、特に医師における際限ない労働が大きな問題となっている。これに対して従来から医師事務秘書(DS)の活用が開始されているが、物理的に問題が解決しているわけではなく、また今度はDSに対する医師の野放図な業務依頼が公私ともに進められた結果、結局、DSの長時間労働につながったりDSごとの業務量の格差に繋がったりしている。このことから、多数の意見を聴取した上でDSの業務調整を行う委員会を来年度より開始することとした。従来の雇用や配分に関しても、場当た

り的な配分とならないよう全体の状況を鑑みた上で配置を行うよう、会議の場で検討できるように調整を行なった。また、他職種連携につながる各業態の意見を聴取し、具体的にどのような連携を進めるのが適当であるかについてディスカッションを行い、来年度の課題とした。また、地域連携に関しては従来から地域連携部門が存在しているが、この部署とどのような地域連携や情報共有が妥当であるのかについて話し合いを進め、泉佐野泉南医師会との連携のもと地域連携パスを改善させる方向で現在調整を開始した。さらに、地域連携で中心的に活躍する開業医との勉強会や地域住民への市民公開講座を開催して地域の意識向上に貢献した。

③ 「地域の活性化や医療者のアクティビティ」

泉佐野保健所の管轄する周辺自治体と協調し、若いうちから高率に循環器疾患をきたすFHに関してスクリーニングを開始した。具体的にはこれら保健所及びその保健師と相談の上、まずは特定健康診断における脂質異常(具体的にはLDLコレステロール200mg/dl以上)の結果を有するものを当院循環器科高脂血症専門外来に紹介いただき適切な診断及び治療を開始し地域連携に逆紹介するルートを確認した。本地域には高LDLコレステロール患者が多く、また、若年での心血管疾患の発症が多く、今後有効な介入となると期待される。来年度も泉佐野保健所におけるプロジェクトとしてFHが採択され、地域連携を含め進めていくことが確認されている。このFHも含めて、地域の予防医学の発展のためさらに実施可能なスクリーニング疾患やその連携について模索しているところである。りんくう地域における主要産業は関西空港に代表される航空業や運輸業であることから、指定航空身体検査および睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング検査を開始した。前者は航空会社との契約につながり、一般社員の定期検診の受注にもつながり今後の関西空港エリアにおける健診の増加につながると期待される。

2018年度 センター業績数

業績内容	件 数
国際誌英文原著・総説(査読あり)	10 件
国際誌英文原著・総説(査読なし)	1 件
国際学会発表	4 件
国内学会発表・座長	19 件
研究会・講演会	17 件
学術講演(医師会講演会等)	9 件
院内講演会	2 件

—今年度の成果と反省点—

健康管理センターでの業績に関しては、従来のシステムからの改良がまだ進んでおらず、十分な受診者数の増加には繋がっていない。今後、さらなるリクルートにより受診者数の増加を進めつつ目標とするシステムの改良を進め、さらなる受診者数の増加につなげていきたい。FHについては近隣クリニックからの紹介も多くなり、当院が脂質異常・高脂血症における本エリアの中心的存在になりつつあることから十分な業績となりうると考えられる。今後もさらに本地域さらには大阪府下へとこの運動を広げることで、当院だけではなくこの南大阪地域から管理されていないFHを一掃したいと考えている。他職種連携に関してはさらにDS業務の連携、他業態の連携をすすめることにより円滑な業務と労働時間の短縮につとめていきたいと考えている。地域連携に関してはまだ始まったばかりであるが、とくに近隣クリニックからの需要に関して十分対応できるようにさらに工夫していきたい。

—来年度への抱負—

開設初年度でもあることから前職からの業績も比較的存在しており当院独自の研究内容のアウトプットに関してはまだ十分ではないと言える。健診システム、DS業務、予防医療の浸透に加え、当院独自の臨床研究の推進も合わせて努力していきたいと思う。